

中期目標・中期計画（素案）

国立大学法人滋賀医科大学

平成21年 6月 29日

国立大学法人滋賀医科大学の中期目標・中期計画（素案）

中 期 目 標	中 期 計 画
<p>(前文) 大学の基本的な目標</p> <p>一県一医大構想のもと地域の大きな期待により開学された滋賀医科大学は、<u>地域に支えられ世界に挑戦する大学</u>として、「患者の立場に立った人に優しい全人的医療教育」、「地域医療への理解」や「独自の倫理教育」、「臨床能力の高い人材の育成」等を実践する各種プログラムを活用した医学・看護学教育を推進することにより、<u>高度専門医療人の育成と創造性に富んだ研究者を輩出</u>することを使命とする。</p> <p>研究面では、サルを用いた再生医学研究、アルツハイマー病等の神経難病研究、MR医学、総合がん医療推進研究や生活習慣病等の重点研究を中心に<u>本学独自の研究活動</u>を推進し、その成果を世界に発信していくことを目標とする。</p> <p>診療面では、病院再開発に連動した<u>医療の高度化と安全、心の通う医療サービスの提供と地域医療連携体制の整備</u>に取り組むことを目標とする。</p> <p>また、<u>教育・研究・診療等の活性化を通じて地域に貢献</u>するとともに、<u>産学官連携等を推進</u>することで<u>各種の活動成果を社会に還元</u>する。</p> <p>本目標を達成するにあたり、<u>近江の地に根ざす「三方よし」の教えを教職員全体で共有</u>しつつ、<u>学生及び地域の期待に応え</u>られるよう、<u>社会的責任を自覚した大学運営</u>にあたる。</p>	
<p>◆ 中期目標の期間及び教育研究組織</p> <p>1 中期目標の期間 平成 22 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までとする。</p> <p>2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別紙（別表 1）に記載する学部と研究科を置く。</p>	

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 学生の受入に関する目標

- ① 本学の教育理念に立脚し、医学及び看護学の修得に真摯にまた熱意を持って取り組む者を求め、医療人として社会に貢献できる学生を選抜する。

(2) 教育方針、内容、方法、成果に関する目標

【学士課程】

- ① 深い教養、確固たる倫理観と医学及び看護学の高い専門的知識及び臨床技能を授けるとともに、旺盛な探究心を有する人材を育成する。

【大学院課程】

- ① 高度な研究能力と、深い学識及び豊かな人間性を備えた研究者ならびに上級専門職を育成する。

(3) 学習支援と生活支援に関する目標

- ① キャンパスは学生の生活の場であるとの視点に立ち多様な学生に対応した学習支援と生活支援を行う。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 学生の受入に関する目標を達成するための措置

- ① 幅広い基礎学力と学習意欲を有する学生の受入や、卒業生の地域定着率向上など様々な社会のニーズを考慮し、受入方針、受入枠、学生選抜方法等の継続的な分析・見直しを実施する。
- ② 大学の特徴や魅力、受入方針の周知を図り、中期目標に掲げる学生選抜を実施する。
- ③ 小・中・高校生に対して、医学・医療現場に接する機会を積極的に設ける。

(2) 教育方針、内容、方法、成果に関する目標を達成するための措置

【学士課程】

- ① 解剖体慰霊式や解剖体納骨慰霊法要への学生参加、早期体験学習等を通じ、本学独自の倫理教育を実践する。
- ② これまで実施してきた教育改革プログラム（各種GP）の成果を踏まえ、地域ぐるみで全人的医療教育を推進する。
- ③ 能動的学習態度、科学的探究心、問題解決能力やコミュニケーション能力の高い人材を育成する。
- ④ 患者シミュレーションや救急蘇生シミュレーション機能等を保持するスキルズラボを活用し、実践力を有する人材を育成する。
- ⑤ 医師国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験の新規卒業者の合格率は、95%以上を目指す。

【大学院課程】

- ① 学問・研究の進展及び社会からの要請に応じて、新たな医学・看護学研究に関する教育プログラムの構築や、医療・福祉・保健をテーマとした近隣大学との大学間連携構想を推進する。
- ② 大学院教育の更なる実質化を図る。

(3) 学習支援と生活支援に関する目標を達成するための措置

- ① 学生の要望を把握し、多様な学生のニーズに応じた適切な学習支援や生活支援を行う。

(4) 教育活動に関する評価・改善システムに関する目標

- ①教育活動の問題点を把握し、それを改善につなげる取組により、教育の質向上と活性化を目指す。

2 研究に関する目標

(1) 目指すべき研究水準等に関する目標

- ①本学を特徴づける先端的医学・医療のプロジェクト研究を推進する。

- ②独創性があり、社会性のある萌芽研究を育成する。

(2) 研究活動の活性化等に関する目標

- ①研究施設、講座の枠を越えた研究組織を構築し、研究者間の連携を高め、研究活動を活性化する。

- ②研究の成果についての検証及び情報発信を推進する。

3 附属病院に関する目標

(1) 良き医療人の育成に関する目標

- ①質の高い医療を提供できる医療スタッフの育成を目指し、教育・研修体制を整備する。

(4) 教育活動に関する評価・改善システムに関する目標を達成するための措置

- ①教員・学生・第三者による授業評価及び卒業生、卒業生が従事する医療機関からのアンケート等により教育活動の問題点を把握し、改善を図る。また、適切な教員研修や教員表彰等を実施する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 目指すべき研究水準等に関する目標を達成するための措置

- ①5つの研究を特色ある研究プロジェクトとして重点的に推進する。
1)サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療法開発への応用

2)神経難病研究

3)MR医学と分子イメージング研究

4)生活習慣病医学

5)総合がん医療推進研究

- ②若手研究者による研究等、次代を担う独創的萌芽研究を支援する。

- ③社会のニーズにあった独創的看護研究を推進する。

(2) 研究活動の活性化等に関する目標を達成するための措置

- ①研究テーマごとに基礎研究者と臨床医が一体となった研究グループを組織し、戦略的研究を推進する。

- ②プロジェクト研究等の目標と計画を定め、成果を適切に評価する。

- ③研究業績データベース等をさらに整備・充実し、研究成果の情報発信を推進するとともに、産学官連携のための資料として活用する。

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 良き医療人の育成に関する目標を達成するための措置

- ①卒前臨床実習から専門教育までを含めた一貫した医師、看護師の教育制度を充実し、地域医療を支える良質の医療人を育成する。

<p>(2) 臨床研究の推進に関する目標</p> <p>①臨床応用を目指した独創的で、特徴のある先端的医療の開発研究を推進する。</p> <p>(3) 医療サービスの向上に関する目標</p> <p>①現場を知り、心のかよった医療サービスの提供により、患者や家族に信頼・安心・満足を与えられる患者参加型病院を目指す。</p> <p>②療養環境や医療提供体制を整備し、地域中核病院として地域住民に質の高い医療を提供する。</p> <p>(4) 効率的で安定した病院運営に関する目標</p> <p>①実績や貢献度、必要度などを分析し新たな業務やサービスにも柔軟に対応できる組織を構築し、診療機能の活性化と効率的で安定した病院運営を目指す。</p> <p>4 その他の目標</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標</p> <p>①地域との連携による教育サービスの提供及び産学官連携による研究成果等の社会への還元により、地域社会の活性化や地域貢献の役割を果たす。</p> <p>②地域中核病院として、他の医療機関や行政と連携し、県民に必要な医療サービスを提供することにより、地域医療に貢献する。</p>	<p>②専門資格取得、能力向上や接遇改善などを目指して、院内医療スタッフの教育・研修を推進するとともに、院外の看護師やコメディカル職員の専門教育・研修機会を提供する。</p> <p>(2) 臨床研究の推進に関する目標を達成するための措置</p> <p>①先進医療を含めた新しい高度医療技術や低侵襲医療、オーダーメイド医療の開発を推進する。</p> <p>②治験や臨床研究の実践を支援する体制を整備する。</p> <p>(3) 医療サービスの向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>①患者からの要望・ニーズを把握して患者サービスの向上を推進する。</p> <p>②医療情報のセキュリティ体制の整備や院内リスクマネジメント体制を強化する。</p> <p>③機能集約型診療体制を充実し、実績や特徴のある分野を育てることにより、最良・最適な質の高い医療を提供する。</p> <p>④臨床指標を用いた医療評価体制を整備し、診療の質向上と活性化を図る。</p> <p>(4) 効率的で安定した病院運営に関する目標を達成するための措置</p> <p>①本院独自の特徴ある総合医療情報システムの高度化を推進し、組織や設備の適正化を図る。</p> <p>4 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>①地域の各機関等と連携し、教育サービスを提供する。</p> <p>②滋賀県及び近隣企業や大学等と連携・協力し、産学官連携等を推進する。</p> <p>③地域における不可欠な医療分野への本院の対応に関する地域医療支援将来構想を策定し、診療面での地域貢献を推進する。</p>
---	--

<p>(2) 国際化に関する目標</p> <p>①国際感覚のある医療人育成や国際共同研究の活性化を図ることで、国際貢献の役割を果たす。</p>	<p>(2) 国際化に関する目標を達成するための措置</p> <p>①学術交流協定等に基づく組織的な交流の促進と、国際化のための環境を整備する。</p> <p>②学生や研究者等の交流や国際共同研究、国際会議・国際シンポジウム等の実施や医療技術者等との交流を通じて、国際貢献の役割を果たす。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1 人材育成戦略の策定と実施に関する目標</p> <p>①大学の主業務である教育・研究の活性化に資する創造的で有能な人材の育成を行う。</p> <p>2 組織戦略の策定と実施に関する目標</p> <p>①学長のリーダーシップのもと明確な組織戦略を策定し、社会に開かれた大学運営を目指す。</p> <p>②大学資源（人材・施設設備・資金）を効果的かつ戦略的に投入し成果の最大化を目指す。</p> <p>③「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成 18 年法律第 47 号）に基づき、平成 18 年度以降の 5 年間に於いて国家公務員に準じた人員削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。</p> <p>3 業務効率化戦略の策定と実施</p> <p>①大学の更なる活性化を目指し、新たな業務やサービス創成にも柔軟に対応できる組織を構築し、効率的な管理運営を推進する。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 人材育成戦略の策定と実施に関する目標を達成するための措置</p> <p>①職員の将来あるべき姿を想定した人員計画を策定し、それに基づく採用を実施する。</p> <p>②教職員の能力開発と研修事業を実施する。</p> <p>③教職員の成長のために、人事評価制度の構築と運用及び評価システムの再評価・リモデリングを実施する。</p> <p>2 組織戦略の策定と実施に関する目標を達成するための措置</p> <p>①各理事は学内外からの提言や助言を受け組織戦略を策定し、適切に大学運営に生かす。</p> <p>②役員会での課題を全学で共有し、構成員が一体となり透明感のある大学運営を推進する。</p> <p>③戦略的目標と整合性のある短期的、長期的な人員計画、施設整備計画及び財政計画を策定し、実行状況を把握しながら定期的な見直しを実施する。</p> <p>④「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成 18 年法律第 47 号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成 18 年度からの 5 年間に於いて、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。</p> <p>3 業務効率化戦略の策定と実施に関する目標を達成するための措置</p> <p>①事務職員等を戦略的に配置するとともに、キャリア形成の道筋を提示し、組織力の強化を図る。</p> <p>②業務を効率化の観点から見直し、電子化・ペーパーレス化の更なる推進を図る。</p>

<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1 収益力向上戦略の策定と実施に関する目標 ①自主財源の確保・拡充に向けた対策を実施する。</p> <p>2 コスト効率化戦略の策定と実施に関する目標 ①コスト意識を徹底し、教職員全体から削減施策を募りつつ更なるコスト削減に挑む。</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 収益力向上戦略の策定と実施に関する目標を達成するための措置 ①大学活動を更に充実させ、医学・医療の発展に寄与するため、支援組織等からの応援を含めた基金等の創設など、全学的な寄附金戦略等を実施する</p> <p>②病院再開発を契機とした診療の効率化を進め、毎年診療関連データの目標値を設定し、その達成に向けた取組と四半期ごとの分析による安定した病院運営にあたる。</p> <p>2 コスト効率化戦略の策定と実施に関する目標を達成するための措置 ①トップダウンとボトムアップの面からコスト意識の徹底を呼び掛けその体制を強化し、社会変動要因を分析したうえで、一般管理費比率や医療材料費比率等の目標数値を年度ごとに設定し、その達成に向けた取組を推進する。</p>
<p>Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1 目標管理システムの構築に関する目標 ①目標の達成度や活動状況を適切に評価し、それを改革・改善に繋げ、大学の活性化を目指す。</p> <p>2 広報戦略の推進に関する目標 ①開かれた大学として社会への積極的な情報発信に努める。</p>	<p>Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 目標管理システムの構築に関する目標を達成するための措置 ①戦略的目標達成のため中期目標・中期計画と連動した大学経営に係る評価指標を定め、各担当理事が主体となりその目標達成に努める。</p> <p>②中期目標・中期計画に掲げる案件あるいは重点的に投資した案件等についての諸活動を定期的に点検・評価し、その結果を改革・改善に繋げる Plan Do Check Action のマネジメントサイクルを定着化させる。</p> <p>2 広報戦略の推進に関する目標を達成するための措置 ①大学の個性や特徴を生かした戦略的な広報活動を強化する。</p>
<p>Ⅴ その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備や環境保全等の推進に関する目標 ①教育研究診療等の体制に対応し、環境に配慮した安全で人に優しいキャンパス環境創造を目指す。</p>	<p>Ⅴ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備や環境保全等の推進に関する目標を達成するための措置 ①学生・患者及び学内構成員のニーズにあった中長期のキャンパス整備マスタープランを策定し、施設整備や設備の維持・管理に努めるとともに、引き続き病院の再開発整備を行う。</p> <p>②学生・教職員全体が環境に対する問題意識を持ち、省エネルギー・省資源、リサイクル・廃棄物対策等を推進することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。</p>

2 コンプライアンスやリスクマネジメント改革の推進に関する目標

①コンプライアンスを推進し、より一層社会に信頼される大学を目指すとともに、大学を取り巻くリスクの多様化、巨大化、複雑化に備え、継続的、安定的な大学運営を目指す。

3 学内教職員の意識改革や組織活性化に関する目標

①創造的で前向きな組織になるべく、教職員の意識改革や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）により、継続的に充実感を感じる職場環境の構築を目指す。

2 コンプライアンスやリスクマネジメント改革の推進に関する目標を達成するための措置

①コンプライアンス体制を構築し、法令遵守、人権意識向上等を学内構成員に周知する。

②リスク管理体制の強化による、継続的、安定的な大学運営を図る。

3 学内教職員の意識改革や組織活性化に関する目標を達成するための措置

①教職員が様々な課題に対し、前例にとらわれずに物事に対応し、やりがいを感じる職場環境作りに取り組む。

②“滋賀医科大学いきいきワーク・ライフ・プラン” を提示し、教職員が充実感を感じて働ける職場環境作りに取り組む。

中期目標		中期計画		年度計画	
別表1 (学部、研究科等)		別表 (収容定員)		別表 (学部の学科、研究科の専攻等)	
学部	医学部	平成22年度	医学部 865人 (うち医師養成に係る分野605人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人	医学部	医学科 605人 (うち医師養成に係る分野605人) 看護学科 260人
研究科	医学系研究科	平成23年度	医学部 875人 (うち医師養成に係る分野615人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人	医学系研究科	生体情報解析系専攻 24人 うち修士課程 0人 博士課程 24人
		平成24年度	医学部 885人 (うち医師養成に係る分野625人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人		高次調節系専攻 28人 うち修士課程 0人 博士課程 28人
		平成25年度	医学部 895人 (うち医師養成に係る分野635人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人		再生・腫瘍解析系専攻 20人 うち修士課程 0人 博士課程 20人
		平成26年度	医学部 903人 (うち医師養成に係る分野643人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人		臓器制御系専攻 28人 うち修士課程 0人 博士課程 28人
		平成27年度	医学部 903人 (うち医師養成に係る分野643人) 医学系研究科 152人 うち修士課程 32人 博士課程 120人		環境応答因子解析系専攻 20人 うち修士課程 0人 博士課程 20人
					看護学専攻 32人 うち修士課程 32人 博士課程 0人